

## 第1章 ひこね共創ビジョンの作成にあたって

ひこね共創ビジョンは、彦根駅から彦根城にかけての彦根市の玄関となる地区で取り組むべき将来像となる新しい計画です。

この計画の実施主体は、従来の行政だけではなく、市民、民間事業者等の様々な立場や考え方が異なった人達が集まってエリアの将来像や課題解決について話し合うエリアプラットフォームです。

現在の彦根市は、社会情勢やニーズへの対応、更には財政状況等においても、大きな分水嶺を迎えています。

この様ななか、公共空間を利用した未来のまちづくりをデザインしていく「ウォークブル」の考え方や計画の概要をまとめました。



## はじめに

### ひこね共創ビジョン作成・監修、まちの魅力の共創の道のり

「ひこね共創ビジョン」（以降、「ビジョン」とする）は、国が進める官民連携 まちなか再生推進事業に基づき、彦根市の新しいまちの魅力の共創に向けた絵姿の計画です。

このビジョンは、地元の大学や事業者の代表で構成する協議会や専門部会にて約2年間の年月をかけて作成しています。（詳細は後述）

行政だけではなく、地元の生活目線、観光目線、また新しい事業を始める目線にて、彦根市ならではの魅力を再発見しつつ、人を中心とする豊かで魅力的なまちづくりを推進していくビジョンの作成の道のりでした。

<b>令和3年度 第1回都市再生協議会 (令和4年3月16日)</b>	<b>専門部会準備会</b> エリアプラットフォーム構成案、ビジョン計画範囲 ビジョンのコンセプト、ウォークラブルについて
<b>令和4年度 第1回都市再生協議会 (令和4年9月5日)</b>	<b>第1回専門部会 (令和4年 6月13日)</b> まちなか回遊ルートについて
	<b>第2回専門部会 (令和4年 7月4日)</b> 回遊ルート案の作成
	<b>第3回専門部会 (令和4年 8月30日)</b> 回遊ルート軸、回遊ルート結節点の設定
<b>令和4年度 第2回都市再生協議会 (令和4年12月14日)</b>	<b>第4回専門部会 (令和4年 10月3日)</b> 彦根が目指す道路再編とは、道路利活用について
	<b>第5回専門部会 (令和4年 10月19日)</b> 道路利活用に必要なスペース、設え、道路形態について
	<b>第6回専門部会 (令和4年 11月9日)</b> 道路利活用を試行する社会実験の企画について
	<b>第7回専門部会 (令和4年 11月30日)</b> 第2回都市再生協議会の報告に向けて
<b>令和4年度 第3回都市再生協議会 (令和5年1月11日)</b>	<b>第8回専門部会 (令和4年 12月22日)</b> ビジョンのコンセプトについて
<b>令和4年度 第4回都市再生協議会 令和5年3月17日</b>	<b>専門部会次年度準備会 (1月～3月にて適宜開催)</b>



## ビジョン作成の背景

### 2025年（令和7年）未来のまちの分水嶺を迎える

彦根市は、滋賀県湖東地域の中心都市であり、彦根駅周辺地区はまちの拠点を担う中枢エリアとして、国宝である彦根城等の歴史・文化、緑があふれる魅力資源とともに市街地が広がっています。

しかしながら、人口減少等による生産年齢人口不足、観光期の交通渋滞等の種々の問題を抱え、さらにはコロナ禍の影響によりまちなかが衰退し、このままでは彦根市のレガシーでもある魅力資源も埋もれてしまい、まちの輝きの喪失が懸念されます。

彦根市の今後数年のタイムラインは、2025年（令和7年）に、彦根城の世界遺産登録、国民スポーツ大会、全国障害者スポーツ大会の開催が予定されており、これを機に、多くの人を訪れることが期待され、今後のまちづくりの分水嶺を迎えると言えます。

以上を踏まえ、世界遺産登録を呼び込み、まちなかの魅力創出につながる新しい絵姿となるビジョンを作成しました。



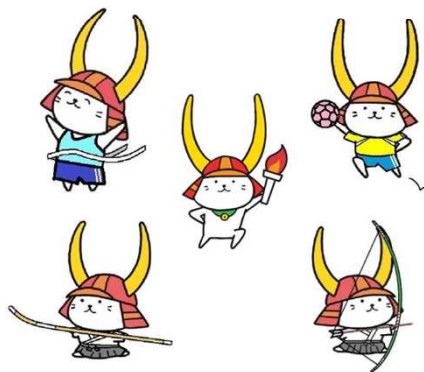
**(事業中)**  
彦根総合スポーツ公園整備



**(事業中)**  
彦根駅西口広場改築



**(2025年)**  
第79回国民スポーツ大会  
・第24回全国障害者スポーツ大会



写真等出典：彦根市撮影等





## 社会背景 多様化するまちのニーズ

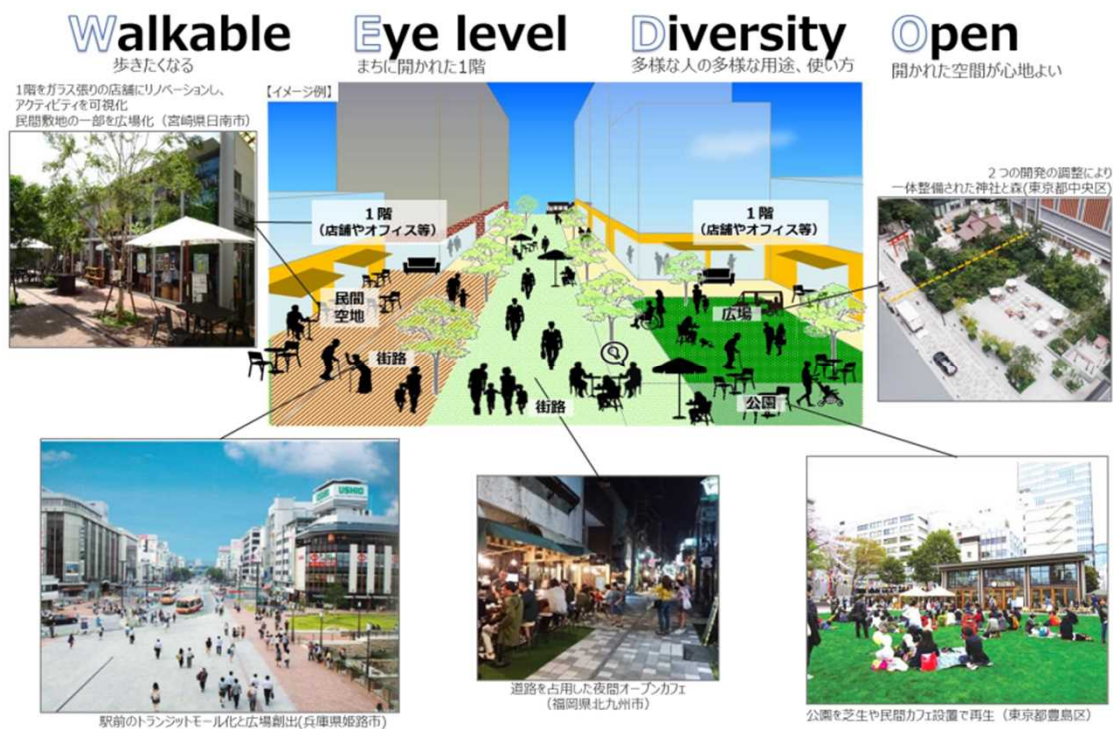
### 人を中心としたまちのリデザイン、ウォーカブルなまちづくり

日本の多くの都市においては、中心市街地の空洞化や、生産年齢人口の減少等に伴う経済成長の鈍化が続いており、今後の都市の在り方やそのビジョンが問われるものとなっています。

一方では、世界や日本の一部の都市が先行して、まちなかを車中心から人中心の空間へと転換していくまちづくりが進められています。

これは、人々が集まり、憩い、多様な活動を繰り広げられる場へと変革する動きである「ウォーカブルなまちづくり」であり、「居心地が良く歩きたくなるまちなか」から始まり、多様な人々の出会い・交流を通じたイノベーションの創出や人中心の豊かな生活を実現するまちのリデザインの動きと言えます。

### 参考：「居心地が良く歩きたくなるまちなか」からはじまる都市の再生



今後のまちづくりにおいては、コンパクト・プラス・ネットワーク等の都市再生の取組みをさらに進化させ、官民のパブリック空間をウォーカブルな人中心の空間へ転換し、民間投資と共鳴しながら「居心地が良く歩きたくなるまちなか」を形成する必要がある。

これにより、多様な人々の出会い・交流を通じたイノベーションの創出や人間中心の豊かな生活を実現し、まちの魅力・磁力・国際競争力の向上が内外の多様な人材、関係人口を更に惹きつける好循環が確立された都市の構築を図るべきである。

資料出典：国土交通省

「都市の多様性とイノベーションの創出に関する懇談会」中間とりまとめ（令和元年6月26日）



## 社会背景 多様化するまちのニーズ

人を中心としたまちのリデザイン、ウォークブルなまちづくり

彦根市民のまちの愛着や定住意向は、愛着は高いもののそれが定住意向へ顕在化していない傾向にあります。

「やすらぎ」や「環境の共生」にみられる環境を大切しながら、安心して住み続けられるまちの将来像が期待されています。

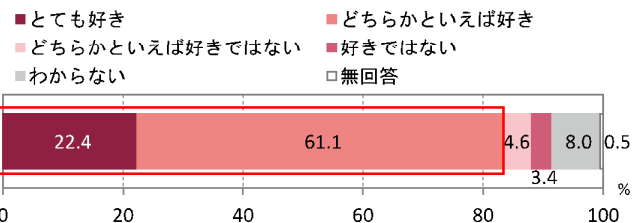
### 参考：まちへの愛着と定住、そして期待される将来像 彦根市 総合計画より

#### まちへの愛着と定住意向

まちへの愛着は高い(8割以上が「彦根市が好き」)ものの定住意向は比較的低く6割程度にとどまっています。

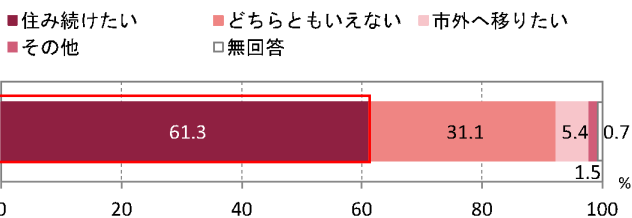
■ 市民意識調査結果「彦根市が好きですか。」

「とても好き」+「どちらかといえば好き」  
約8割を占める



「住み続けたい」  
約6割にとどまっている

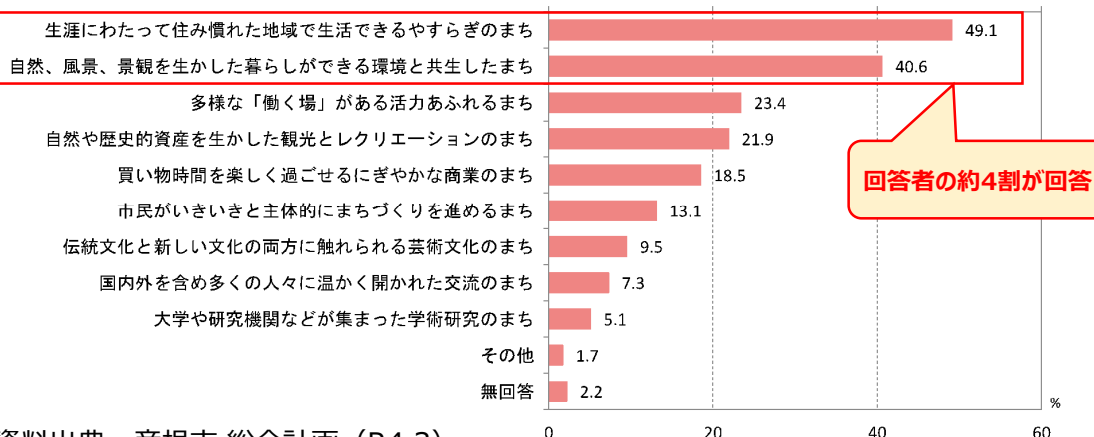
■ 市民意識調査結果「彦根市に住み続けたいと思いますか。」



#### まちの将来像

「生涯にわたって住み慣れた地域で生活できるやすらぎのまち」との回答が最も多く、次いで「自然、風景、景観を生かした暮らしができる環境と共生したまち」があげられていることから、環境を大切にしながら安心して住み続けられるまちの将来像が期待されています。

■ 市民意識調査結果「彦根市がどのようなまちになるとよいと思いますか。(複数回答)」



回答者の約4割が回答

資料出典：彦根市 総合計画 (R4.3)



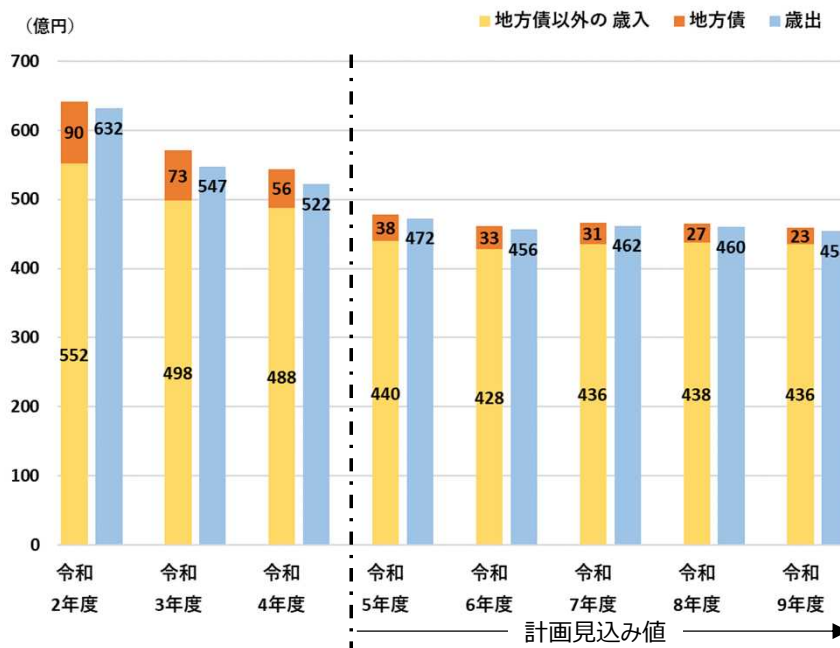
# 彦根市の財政状況

## 歳出と地方債の過多、財政の健全化が喫緊課題

彦根市の財政状況は、新庁舎の建設、彦根城の世界遺産登録や国民スポーツ大会の開催等の準備、更にはコロナ対策等により、歳出が加速的に増加、歳入と歳出は地方債がないと黒字決済にならないことが想定されています。

まちへのニーズは多様化、高度化する一方、彦根市の新しいまちなかをデザインしていくうえでは、財政の健全化を推し進める視点もさらに重要度が増していると言えます。

### ▼市財政 歳入と歳出



### ▼地方債残高と実質公債比率の推移

※実質公債比率が18.0%を超える地方公共団体は、国の許可がないと新たな地方債を発行できない



資料出典：彦根市中期財政計画（令和4年11月）



## エリアプラットフォームの構成

### ビジョン作成した彦根駅周辺地区エリアプラットフォームのメンバー紹介

ビジョン作成にあたり、都市再生協議会と専門部会から構成される「彦根駅周辺地区エリアプラットフォーム（以降、「エリアプラットフォーム」と略）」を構築しました。

専門部会が計画を提案し、都市再生協議会が意思決定を行う役割をそれぞれ担い、ビジョンの作成を行いました。

都市再生協議会メンバーは学識経験者、民間事業者、行政等にて構成、専門部会メンバーは彦根市をフィールドに活躍されているまちづくり関連の実務者にて構成しています。

### 彦根駅周辺地区エリアプラットフォーム

#### 【都市再生協議会メンバー】

分野	所属
学識 経験者	【会長】 橋爪 紳也（大阪公立大学研究推進機構特別教授）
	【会長代理】 轟 慎一（滋賀県立大学環境科学部環境建築デザイン学科准教授）
	中野 桂（滋賀大学 経済学部教授）
	塩見 康博（立命館大学理工学部環境都市工学科教授）
商工関連	彦根商工会議所
	公益社団法人彦根観光協会
行政	滋賀県（土木交通部都市計画課、湖東土木事務所）
	彦根市（企画振興部、福祉保健部、産業部）
専門委員	近江鉄道株式会社
	国土交通省近畿運輸局
事務局	彦根市（都市政策部）
専門部会代表	近藤 紀章（滋賀大学経済学部 データサイエンス・AIイノベーション研究推進センター 講師）

#### 【専門部会メンバー】

分野	所属
実務者	【代表】近藤 紀章 滋賀大学 経済学部 データサイエンス・AIイノベーション研究推進センター 講師 特定非営利活動法人とんがるちから研究所 代表理事 ほか
	上川 七菜 半月舎 舎主（「近江楽座」事務局OB）
	前谷 吉伸 小江戸ひこね町屋情報バンク 事務局長 「ななまち」代表 ほか
	柴田 雅美 滋賀大学 地域連携教育推進室長 教育・学生支援機構特命教授 特定非営利活動法人Links 代表
	松岡 一隆 株式会社近畿日本ツーリスト関西 関西地域交流部（彦根城 維持管理等業務委託先）
アドバイザー	山下 裕子 全国まちなか広場研究会理事 NPO法人GPネットワーク理事 2014年より広場ニストとして独立
事務局	彦根市（都市政策部）





# 計画年次とビジョン対象エリア

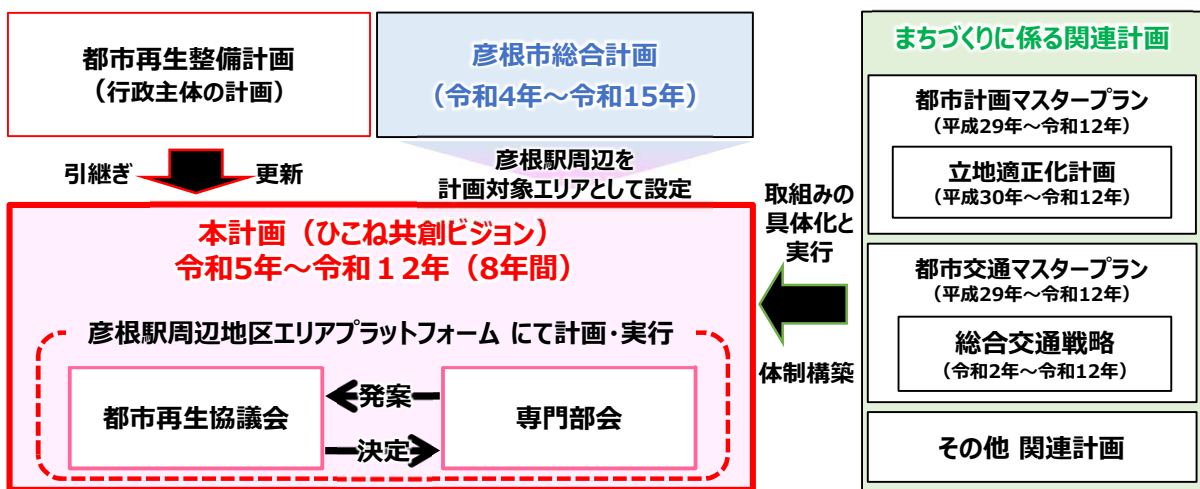
## 上位関連計画における位置づけ、計画主体、計画年次とビジョン対象エリア

ビジョンは、彦根市総合計画を踏まえ、地区の土地利用計画である立地適正化計画の計画年次を踏襲し、令和5年から令和12年の8年間で着手する計画です。

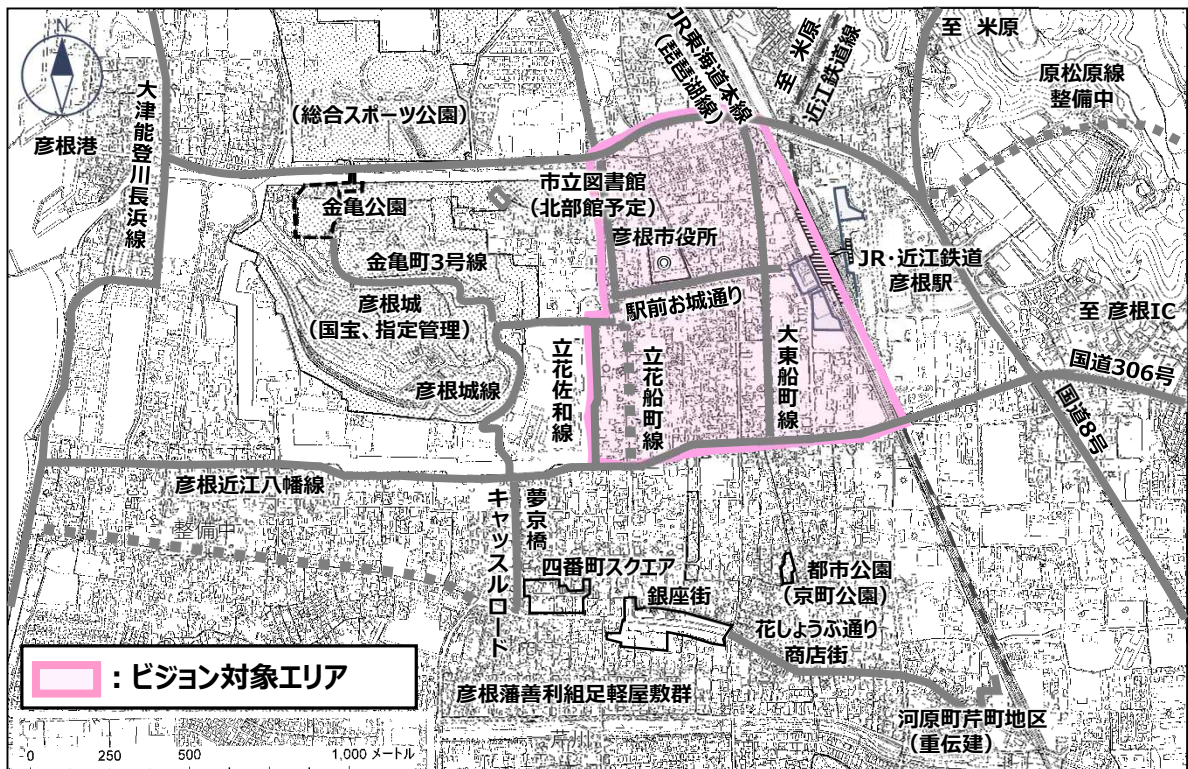
今後は、エリアプラットフォームによって、ビジョンを運用し、更新していきます。

ビジョンの対象エリアは、彦根駅～彦根城を中心としながら、都市の骨格、まちなみの形成との整合性を図りながら、エリアプラットフォームの専門部会の原案検討のもと、都市再生協議会で設定しました。

### ▼ビジョンの計画の位置づけと計画年次



### ▼ビジョン対象エリア



地図出典：彦根市